



物流拠点としてのモーリシャスの活用

2024年5月29日

オンラインセミナー:

モーリシャス共和国経済開発総局 (EDB)

一般財団法人海外投融資情報財団 (JOI)

株式会社プロスペリティ・ロジスティクス

代表取締役 宮内芳之

内容

1. 日本→モーリシャスの主要物流手段
2. 日本発コンソリデーション/ LCL /FCL , CFSSの活用
3. グローバルビジネスプラットフォームとしてのモーリシャス
4. グローバルな物流ハブ港としてのモーリシャスの可能性
～Mauritius, The Tiger of the Indian Ocean～
モーリシャスはドバイやシンガポールに次ぐ物流ハブとなり得るか

1.日本→モーリシャスの主要物流手段(2024年5月現在)

「パレットサイズの小口貨物の輸送」から「グローバルな物流ハブ拠点」としての異なる2種類のビジネスモデル

日本→モーリシャス

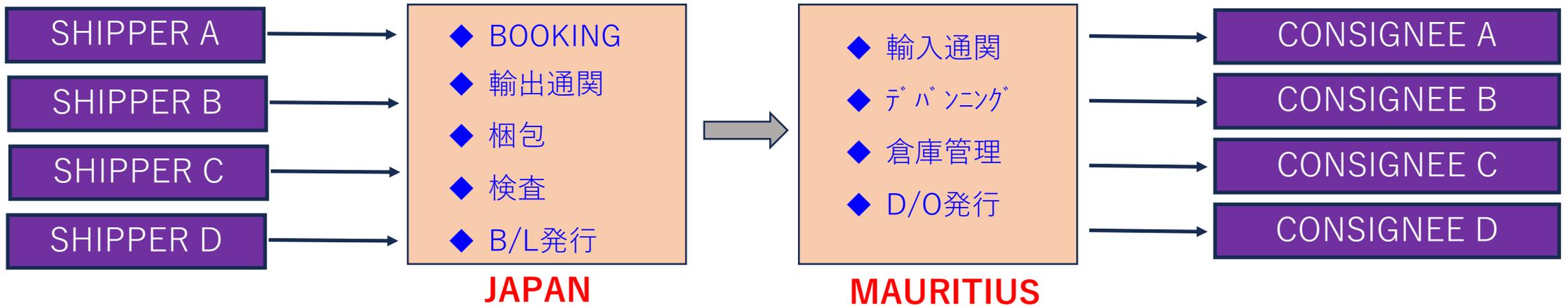
- **海運輸送** . . . **商船三井 / Maersk Line / MSC / CMA CGM**
輸送コスト . . . 航空に比べ安価で多くの貨物を一度に輸送可能
USD3400前後 / 40feet (2024年5月現在)
輸送日数 25日~45日
- **航空輸送** . . . **DHL / FEDEX / エアーマーリシャス / エミレーツ航空 / サウスアフリカ航空**
輸送コスト . . . 海運より10倍~20倍高い
輸送日数 7日~10日

2.日本発コンソリデーション LCL / FCL, CFSの活用

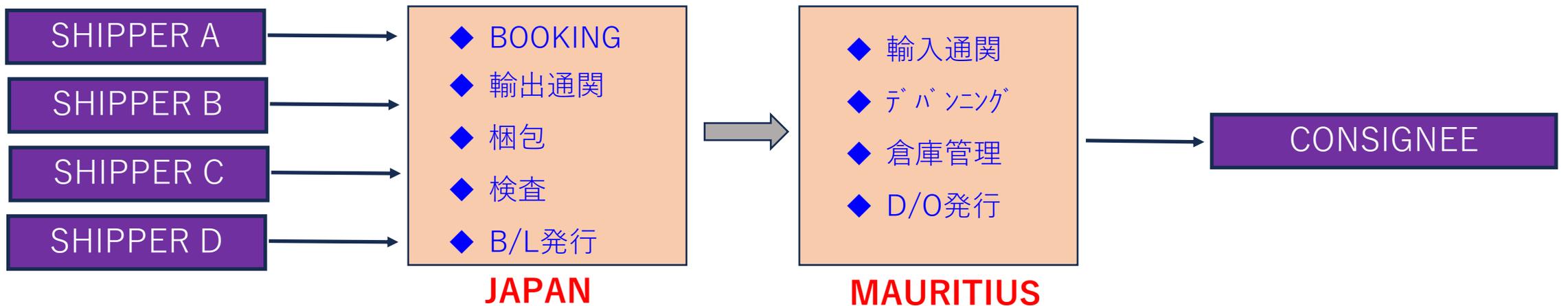
FCL . . . Full Container Load
コンテナ単位での輸出入

LCL . . . Less Than Container Load
小口貨物の混載便

輸出事例(1) LCL(小口貨物)のコンソリデーション

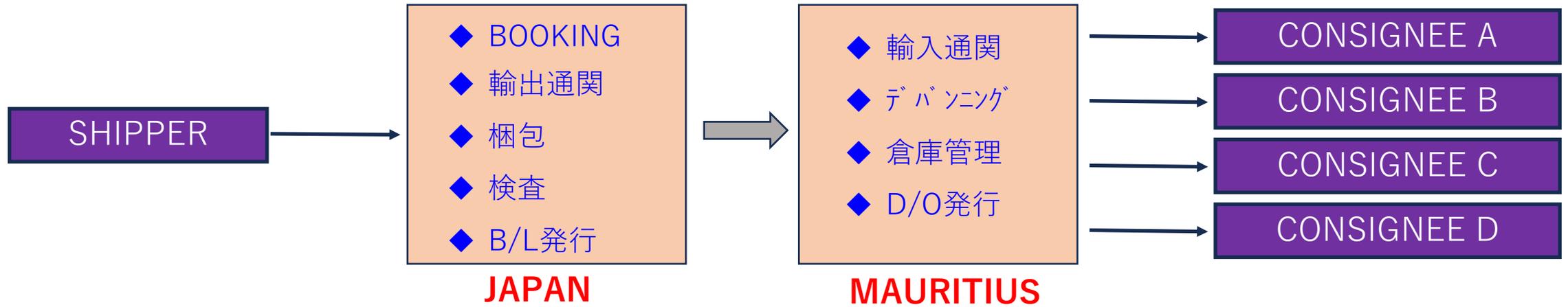


フォワーダー主導によるコンソリデーション(CFS-CFS)

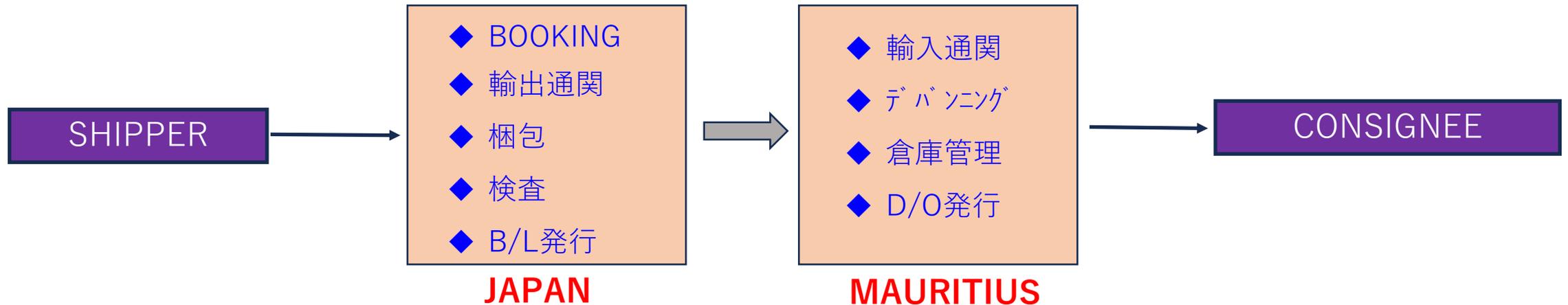


バイヤー主導によるコンソリデーション(CFS-CY)

輸出事例(1) FCL (Full Container Load)

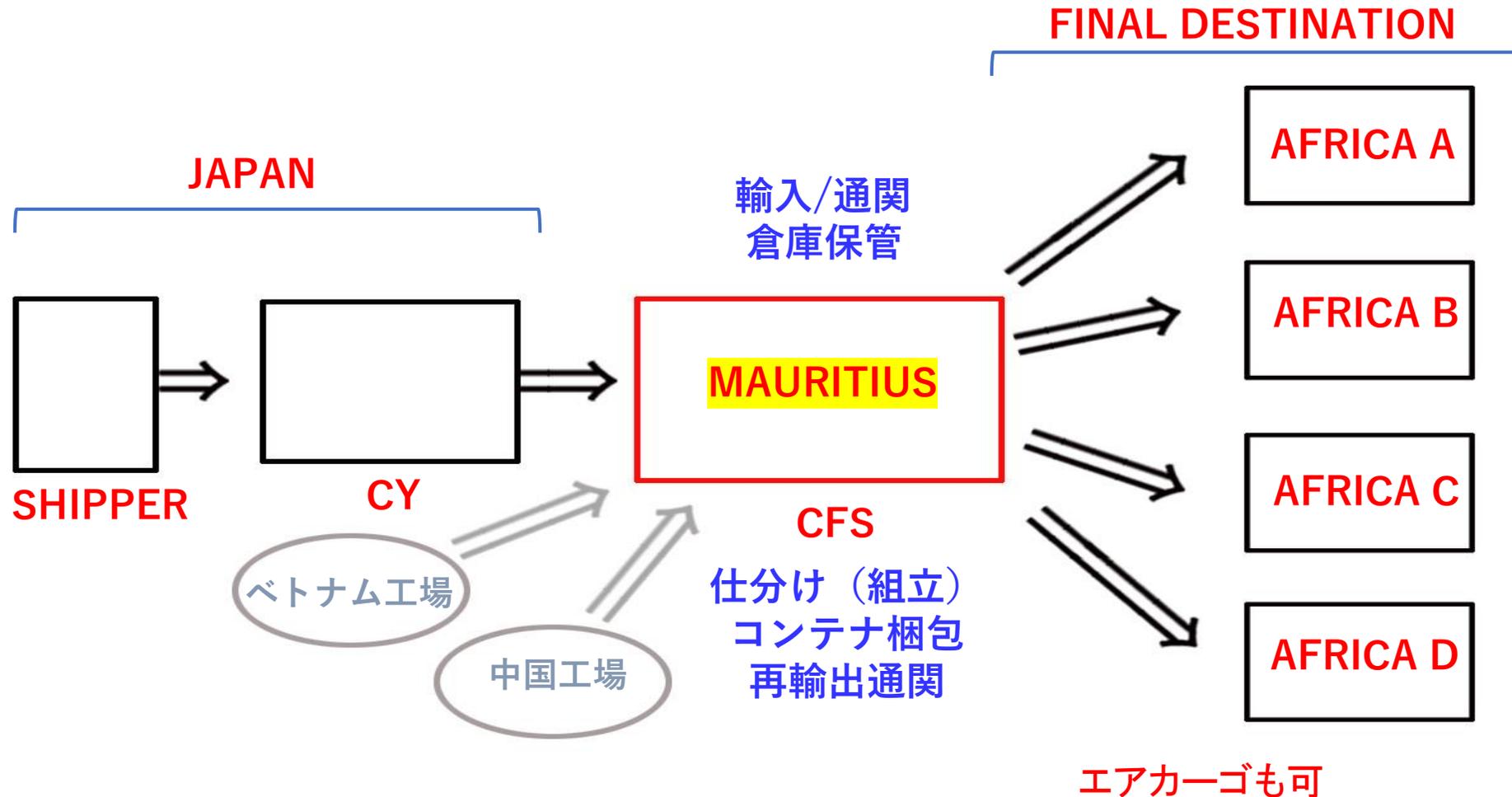


荷主主導によるコンソリデーション(CY-CFS)

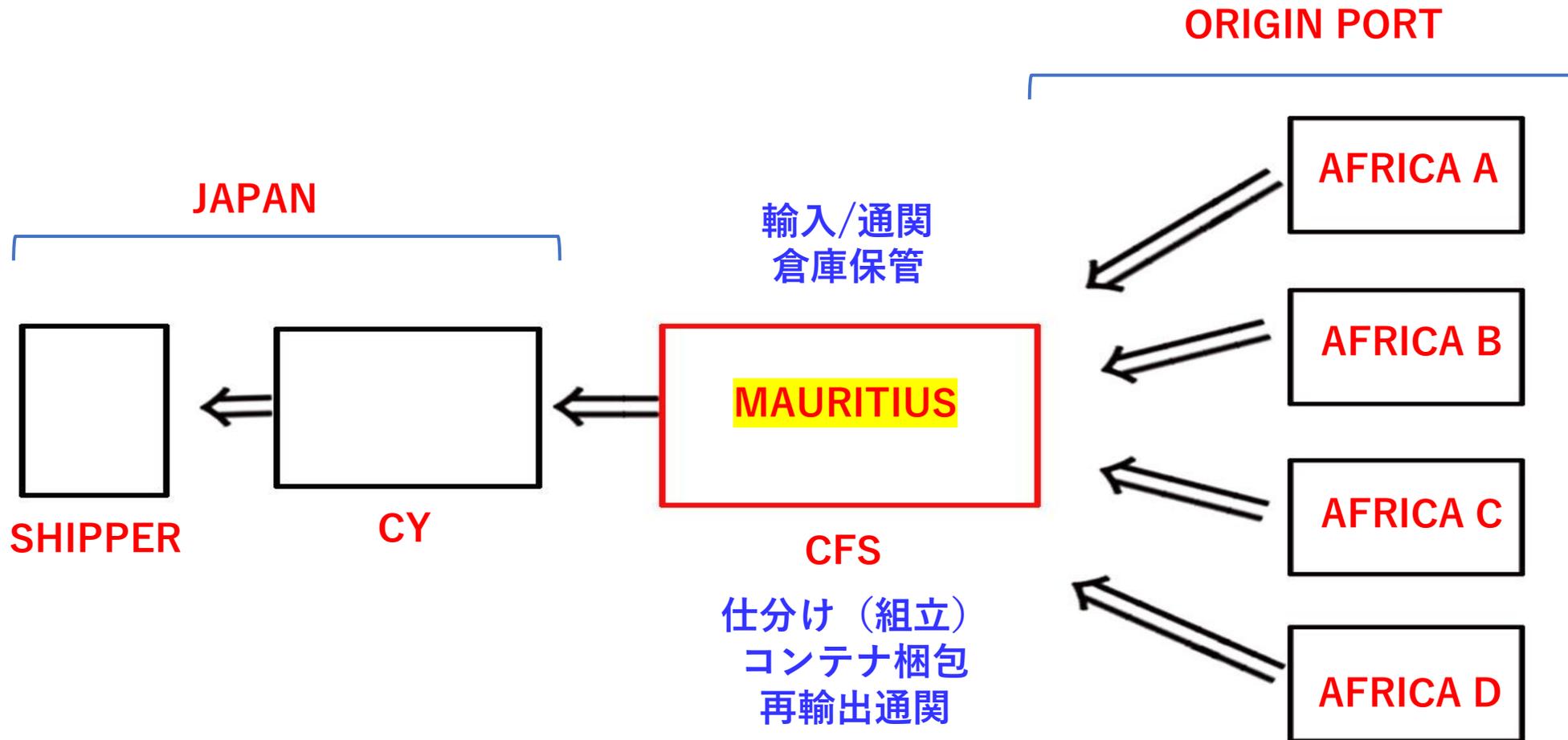


一般的なコンテナ輸出形態(CY-CY)

3.グローバルビジネスプラットフォームとしてのモーリシャス



3. グローバルビジネスプラットフォームとしてのモーリシャス



4.グローバルな物流ハブ港としてのモーリシャスの可能性

～Mauritius, The Tiger of the Indian Ocean～

観光
高級リゾート

イノベーション
&テクノロジー

フリーポート

金融ハブ

アフリカへの
アクセス

優遇税制



4. グローバルな物流ハブ港としてのモーリシャスの可能性

～Mauritius, The Tiger of the Indian Ocean～

ドバイやシンガポールに次ぐ物流ハブになり得るか



1. 戦略的ロケーション

ポートルイスはインド洋に戦略的に位置しており、アジア、アフリカ、中東などを結ぶ 便利な玄関となっている。その中心的な位置により、これらの地域間の貿易や積み替え活動に適している。

2. アフリカ市場への近さ

モーリシャスがアフリカ市場に近いことは、アフリカ大陸へのアクセスまたはアフリカ大陸への進出を検討している企業にとって戦略的利点をもたらす。ポートルイスはアフリカ本土や近隣の島嶼国との貿易の拠点として機能し、多様な市場へのアクセス を容易にする。

3. 特恵貿易協定

モーリシャスはさまざまなアフリカ諸国、および地域経済圏と特恵貿易協定を結んでおり、関税上の利点を提供し、国境を越えた貿易を促進している。これは、商品の輸入、輸出、再輸出にこれらの協定を活用しようとしている企業にとって、特に有益である。
二国間自由貿易協定、多国間貿易協定により免税か、関税は基本的に低い。

4.グローバルな物流ハブ港としてのモーリシャスの可能性

～Mauritius, The Tiger of the Indian Ocean～

ドバイやシンガポールに次ぐ物流ハブになり得るか



4. コスト競争力

ドバイやシンガポールのような物流拠点と比較して、人件費、不動産に関わる費用、営業経費を含むモーリシャスの運営コストは低い傾向にある。これにより、倉庫保管、配送、その他の物流活動に携わる企業のコスト削減につながる。

5. 税制と投資環境

モーリシャスには、商品の効率的な通関と国際貿易規制の遵守を促進する最新の税関施設と、規制枠組みがある。ポートルイスには、通関手続きを迅速化するために保税倉庫やその他の設備が充実しており、税制においても法人税は15%。国内で販売せず製造品を全て輸出する企業は実質3%キャピタルゲイン課税なし、資本移動の自由、外資出資比率制限がなく、経済の自由度は高い。

6. ビジネスの始めやすさ

モーリシャス政府は、新規参入するビジネスの設立と運営のために、合理化され、且つ有利なビジネス環境を提供している。政府は海外投資と起業家精神を積極的に促進し、投資家に手厚いサポートとインセンティブを提供している。

4. グローバルな物流ハブ港としてのモーリシャスの可能性

～Mauritius, The Tiger of the Indian Ocean～

ドバイやシンガポールに次ぐ物流ハブになり得るか



7. インフラストラクチャと接続性

ポートルイス港には、決して規模が大きいとは言えないが、近代的な港湾施設、輸送ネットワーク、国際航路への接続性がある。この港には、コンテナ輸送、バルク輸送、ブレイクバルク輸送など、幅広い種類の貨物を処理できる設備が整っている。

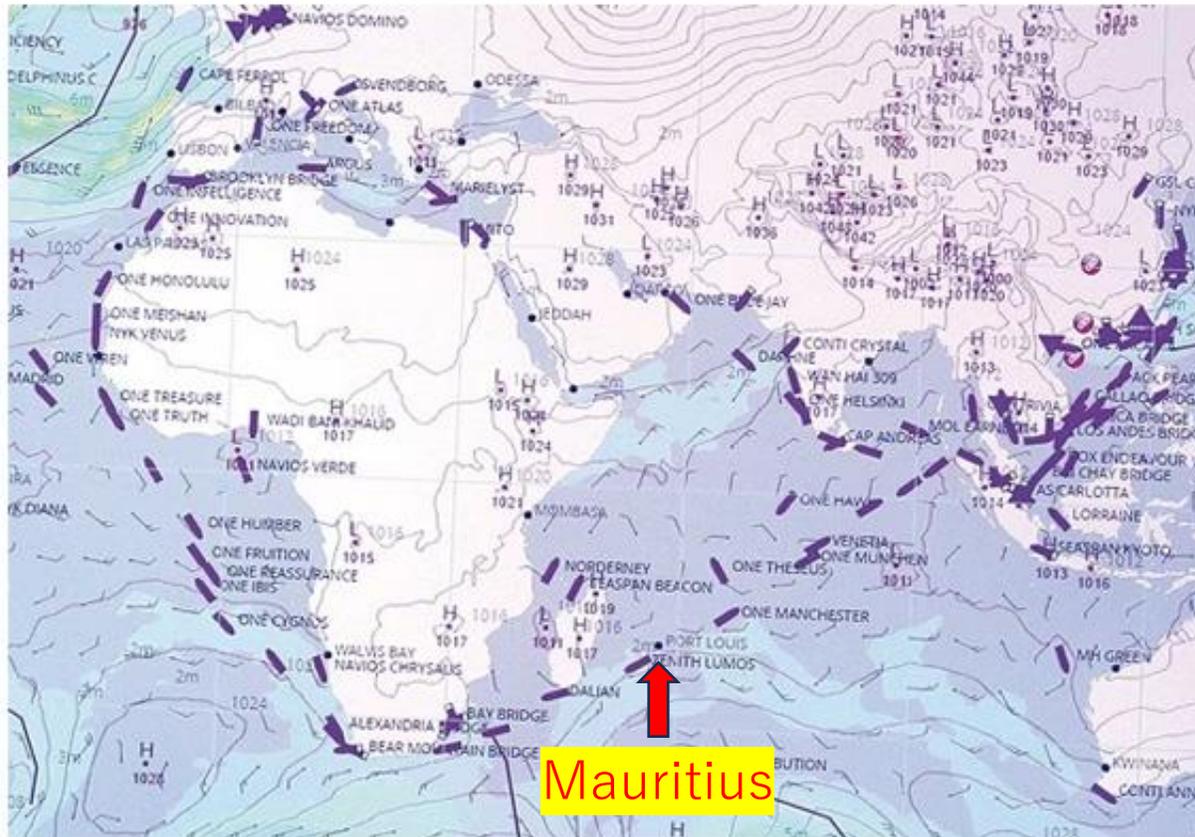
8. 安定性と安全性

モーリシャス政府は、たとえ政権が交代しても、それまでの政府方針が大きく変わってしまうようなリスクは極めて少なく、政治的な安定感があり、透明な統治、国際法の支配の尊重で知られている。国内の治安も良く、ポートルイスは投資家や企業に安全で安心な事業運営環境を提供します。



在モーリシャス日本国大使館
Embassy of Japan in
Mauritius

スエズ運河のリスクを避け喜望峰と経由する船舶数が急増



第7回アフリカ開発会議(2019), 第9回アフリカ開発会議決定(2025年) TICAD7(2019), TICAD9(2025)



アフリカの開発をテーマにした重要な国際会議が再び横浜に!

第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)
2025年 横浜開催決定

会いたい!
アフリカ



トップページ > 会費・発表・広報 > 報道発表 > 第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) の開催日程の決定

報道発表

第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) の開催日程の決定

令和5年3月22日
英語版 (English)

📄 ブログ 📄 SNSシェア 194 📄 メール

3月22日、閣議にて、第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) を2025年(令和7年)8月20日から22日まで横浜で開催し、また、その機会に、第58回対口開世アフリカ員視察式を実施することが閣議にて了解されました。

日本政府は、1993年にアフリカ開発会議 (TICAD) を立ち上げて以降、約30年間にわたって、アフリカ自らが主導する開発を後押ししていくとの精神で取り組んでまいりました。TICADプロセスを通じて、日本とアフリカ諸国との関係を一層深化させていきます。

(参考) アフリカ開発会議 (TICAD/Tokyo International Conference on African Development)

アフリカ開発をテーマとする国際会議。1993年の第1回会議以降、2013年の第5回会議までは5年に1回開催され、2016年に初めてアフリカ(ケニア、ナイロビ)で行われた第6回会議からは、3年に1度の開催となった。

第1回から第3回会議までは東京において、第4回、第5回、第7回は横浜で、第6回はチュニジアで開催された。現在は国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会 (AUC) がTICADの共催者となっている。

2024年(令和6年)に東京で開催されたTICAD8開催委員会を開催した後、2025年(令和7年)に横浜で開催されるTICAD9(第9回会議)を開催予定。

関連リンク

▶ アフリカ開発会議 (TICAD)

▶ アフリカ情報 アフリカ第一線